

地球規模保健課題解決推進のための研究事業
事後評価 課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	ベトナム国での生活習慣病の進展防止に向けた栄養指導ソフトを用いた栄養介入の開発研究
研究開発機関	京都大学
研究開発代表者	稲垣 暢也
研究期間	平成 30 年 8 月 10 日～平成 31 年 3 月 31 日

○評価委員会コメント

- ・他の中所得国での栄養指導ソフトの開発も期待できうる。
- ・栄養指導ソフトの開発研究であり、実装研究としては取り組みが不十分である。エビデンスのある介入を実装するための一般化可能な知識を得るという実装研究の目的に合っているとは言い難い。
- ・実装を見据えた場合、大学、研究機関だけでなく、政府機関との連携も考慮する事が望まれる。
- ・栄養指導は研究活動のうちの一つであるが開始されておらず、研究期間中に計画が達成できない見通しである。
- ・栄養介入を行う糖尿病患者対象数は 20 人を計画しているが、現時点では 5 人しか登録できていない。
- ・100 人の小学生を対象にしたエネルギー摂取量の評価は、栄養指導ソフト開発とどのように関連するのか明示されたい。栄養士をベトナムでどのように取り扱うのか明確にし、また、ベトナムでの栄養構成の検証が望まれた。

地球規模保健課題解決推進のための研究事業
事後評価 課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	Development of a mHealth-based package targeting women at reproductive age for prevention of NCDs
研究開発機関	国立成育医療研究センター
研究開発代表者	蓋 若琰
研究期間	平成 30 年 8 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日

○評価委員会コメント

- ・生殖可能な年齢にある女性の生活習慣病の予防は意義が高い。RCT の結果についてはこれから分析するものの、介入は予定通りに実施できている。
- ・パイロット RCT の実施において、計画通りのサンプル数が確保できているかどうか不明瞭であった。また、研究対象者の受容度や理解度、行動変容は重要な要素である。今後の発展に向けて、これらを明らかにされたい。
- ・”PreventT2“は、本研究の専門家パネルにより使われたのか、また、どのようにこの専門家パネルが関与したのか説明が不足していた。

地球規模保健課題解決推進のための研究事業
事後評価 課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	ミャンマー農村部における高血圧の予防・診断・治療の段階的介入パッケージの実装研究
研究開発機関	新潟大学
研究開発代表者	菖蒲川 由郷
研究期間	平成 30 年 8 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日

○評価委員会コメント

- 研究期間は短いものの、計画通りにスクリーニングイベントを実施し、研究に進捗が見られている。イベントを定型化し、ミャンマー国内、ひいては ASEAN 諸国へ拡張できるようなものとしたら更に意義が高まると思われる。
- 血圧測定は簡易、かつ地域住民の理解を得られるものであり、高血圧に焦点を当てたことは生活習慣病の予防において良いエントリーポイントとなる。尚、調査地域では、降圧剤の服用が女性 61.1%、男性 56.8%と驚くほど高いため、今後その実態を明らかにしていただきたい。
- スクリーニングイベントの実施から、介入実装に向けての一般化された知識が得られるかどうか不明確。CFIR などのフレームワークを用いて、実装の阻害・促進要因の分析についての記載が望まれる。
- 計画上で高血圧のリスクは high-risk, medium-risk and low-risk に分類されているが、研究の実施においては low-risk, high-risk with follow-up and high-risk with referral の分類であり、異なる。